



命の意味を考え、脈々としたそのつながりに思いを馳せる



No.24でお伝えしましたが、「命」について全校に話をした後、各学級担任が様々な形で子どもたちと考える場面を設定してくれました。低学年の児童もたくさん考えてくれたようです。ある教室では、背面黒板に掲示してありましたので紹介します。

- ぼくは、虫を捕まえたりして命を奪っていたのかもしれない。もしそうだとしたら、ぼくはすごくひどいことをしてしまった。これからは、虫の命も友だちの命もみんなの命も大事にしていきたい。命は自分に与えられた大切なもの。命を落とすと、もう神様にもらえないかもしれない。もしもらえたとしても、顔や性格は同じではない。命は体の中で働いているから褒めてあげたい。
- 神様がくれた命だから、(自分の)命と同じみたいに友だちも家族も大事にしたい。自分のたった一つの物だから。
- みんなもぼくも命がないと生きていけない。命があれば、小さくても大きくても生きられる。だけど、悲しいけどいつか命はなくなる。命はどんどん小さくなる。でも、それは無駄にはなんない。たった一つの命を大切にするのもそうだし、友だちも生きてる。自分も友だちも命を守っていっぱい生きている。
- 命は、今楽しく遊んでいても急に命の電池がなくなることもある。だから今、命があるうちに友達や家族と一日を大事に過ごしたい。病気とかになっても、一日一日命を大切に家族や友だちの命も自分の命も守っていききたい。ずっと働いてくれている命に感謝しています。命は本当に大切だから、相手に「死ね」という言葉は使いません。

※原文を一部、漢字変換したり省略したりしています。

つたない文章であっても、真剣に考えたことが窺われます。全校児童に話をするたびに不安に思うのは、言葉が相手にどのように届いたか、伝わったかということです。そういう意味で、発達段階に応じてきちんと補足してくれている学級担任を誇りに思います。

さて、「命」という漢字は「命令」の「令」に「口」という字を添えたものです。「令」は、儀礼の際に用いる帽子をかぶり、ひざまずいて神のお告げを聴いている人を示した象形文字です。つまり、「命」とは、祝詞を唱えて祈りを捧げる人に、神のお告げとして天から与えられたもの、という意味をもつのだそうです。そして、命は神から賜ったものであるという考えと同時に、遠い祖先から守り継がれ、父母から渡された襷（たすき）でもあると言えます。

最近読んでいた「思い出が消えないうちに」（川口俊和著）に次のような一節があります。『私は思う。人の死自体が、人の不幸の原因になってはいけない。なぜなら、死なない人はいないからだ。死が人の不幸の原因であるならば、人は皆不幸になるために生まれてきたことになる。そんなことは決してない。人は必ず幸せになるために生まれてきたのだから…』

頑張っている人も、必ず頑張れない時がきます。つらくて、苦しくて…。でもその時に、一人じゃない、応援されているんだということに気づくと勇気が湧いてくるものです。だから、自分の命の意味を考え、使い切って、自分も含めたみんなが幸せになれるように、襷を次へつないでいかなければなりません。それは、自分の好きなことをとことんやり遂げる、新たなことに挑戦し続ける、誰かのために一生懸命取り組む等、人それぞれ。時々でよいので、命の襷について考えたいですね。

第24回市川市特別支援教育振興大会開催のお知らせ

この大会は2年に一度開催されており、今年度は以下の要領で開催をします。関心のある方は、申し込みをしますので、12月17日(火)までに教頭(横田)へお知らせください。

- 1 大会主題 「自分らしく」学び「自分らしく」社会参加するために
- 2 目的 医療・福祉・教育・労働など関係者相互の協力のもと、市川市の特別支援教育および障がい児(者)に対する理解を深め、本教育の振興を図る。
- 3 期 日 令和2年1月30日(木) 9:45~12:30 (9:15開場)
- 4 会 場 市川市文化会館 小ホール
- 5 記念講演 「発達障害の人が快適に暮らすために」
講師：村上 由美 氏 (言語聴覚士・認定コーチングスペシャリスト)

去る十一月十二日と二十六日と十二月六日に、「高谷中学校ブロック義務教育学校設置の提案に関する保護者説明会」が開催されました。ここにその一部を記します。なお、資料が必要な方は、学校にお越しくださるかご連絡いただければお渡しします。

▼義務教育学校は、小中一貫教育の実施を目的とする学校で、子供の発達段階に即したカリキュラム編成を柔軟に行うことが出来るため、教育制度の面から、より質の高い教育環境を整えることが出来る。

▼高谷中学校ブロックは、小学校と中学校の通学区域が一致しており、九年間の学びを保障するという面から、設置検討の提案をしている。

▼信篤小は、学校規模が大きいため、しばらくの間は、校舎をそのままにして次のような形で進めていくことが考えられる。

①高谷中と二俣小が義務教育学校となり、信篤小は同じ教育課程のもとで一貫教育を推進する形態

②高谷中、二俣小、信篤小が義務教育学校となり、施設分離型で一貫教育を推進する形態(例えば、一〜四年は信篤校舎、五〜九年は高谷校舎で学ぶなど)
ただし、将来的には一体型校舎を基本としている

▼義務教育学校設置は決定事項ではなく、提案である。今後は各学校の学校運営協議会の代表で構成する検討委員会を設けて、検討・協議を進め、合意形成を図りながら、具体的な方向をまとめていく。

▼順調に進行した場合であっても、義務教育学校の設置までには二年程度はかかる。



今月のおめでとう

■市川市市民マナー条例コンクール

■親子クッキングコンテスト

■てのひら文庫

■市川市男子ミニバスケットボール大会

■市川市女子ミニバスケットボール大会

優秀賞 4年 安西 小遥さん

準優勝 6年 畠山 加穂奈さん

優良賞 4年 小川 瑞央さん

奨励賞 4年 東垂水 鈴花さん

奨励賞 2年 小川 想司くん

第3位 二俣MBC

第5位 信篤MBC



※市川市歯・口の健康啓発標語コンクール入賞の6年M.Kさんの作品は、千葉県で佳作となりました